

令和5年度 岡谷市総合教育会議 会議録

以下のとおり、会議内容について報告いたします。

-
- 会議名 令和5年度 岡谷市総合教育会議
- 日 時 令和6年2月6日（火）午前10時00分～11時40分
- 場 所 市役所8階理事者控室
- 出席者 構 成 員 早出一真市長、宮坂享教育長、太田博久教育長職務代理者、
林慎太郎教育委員
- 市長補佐 小口道生副市長
- 事務局 岡本企画政策部長、仲田企画課長、清水統括主幹、大塚主査
- 補助執行 白上教育部長、濱主幹指導主事（兼）学びの創生・連携支援室長、
伊藤生涯学習課長、小松スポーツ振興課長、
味澤統括主幹、西山教育企画主幹、新村川岸学園設立準備室主幹、
長谷川子ども総合相談センター主幹
- 説 明 者 帯川健康福祉部長、高橋子ども課長、森下子育て支援主幹、
牛澤保育主幹、林健康推進課長、矢澤保健指導主幹
- 議 題 1 第3期岡谷市教育大綱（案）について
2 岡谷市川岸学園整備基本計画（案）について
3 こども家庭センターの設置について
- 配付資料 ①第3期岡谷市教育大綱（案）
②岡谷市川岸学園整備基本計画（案）
③「岡谷市こども家庭センター まゆっこベースおかや」の設置について
-

開会

企画政策部長 ただいまから令和5年度岡谷市総合教育会議を開催いたします。はじめに早出市長よりご挨拶申し上げます。

市長あいさつ

市長 本日はお忙しい中、岡谷市総合教育会議にお集まりいただきましてありがとうございます。教育長並びに教育委員の皆様には日頃から岡谷市の教育行政の発展に多大なるご尽力を賜り、感謝を申し上げます。

本日の議題は「第3期岡谷市教育大綱(案)について」、「岡谷市川岸学園整備 基本計画(案)について」、「こども家庭センターの設置について」協議をお願いいたします。

本会議を通じて、市と教育委員会の連携をさらに深め、第5次岡谷市総合計画の教育に関する基本目標であります「未来の担い手を育み、生涯を通じて学ぶまち」、また、岡谷市教育大綱に掲げる基本理念であります、「自立し共生し、創造性溢れる『岡谷のひと』づくり」の実現に向けて、着実に前進してまいりたいと考えておりますので、活発な意見交換をお願い申し上げます。

本日は、どうぞよろしく願いいたします。

企画政策部長 続きます、宮坂教育長よりご挨拶をいただきます。

教育長あいさつ

教育長 教育委員会を代表して、一言ご挨拶させていただきます。

市長さんをはじめ、市長部局の皆さまにおかれましては、日頃より、岡谷市の教育行政の発展に向け、大きなご理解とご協力をいただいておりますことに心より感謝を申し上げます。

令和5年度も終盤に差し掛かり、小中学校では受験や卒業、学期末など、大きな節目を迎える大切な季節となってまいりました。寒暖の差が激しい時期でもありますので、子どもたちの健康と安全に留意した学校運営に努めているところであります。

本日は、今後の教育行政の推進にあたり、その根本となる、「第3期岡谷市教育大綱（案）」や、川岸学園構想の実現に向けた「川岸学園整備基本計画（案）」に関するご協議をいただいております。

また、3件目の「こども家庭センターの設置」につきましても、教育に関係の深いテーマであり、いずれも大切な内容でありますので、教育委員とともに有意義な意見交換などをさせていただければと考えております。本日は、よろしく願いいたします。

企画政策部長 それでは、本日の会議に入らせていただきます。最初に、白上教育部長より報告をお願いします。

教育部長 出席を予定していた小平教育委員につきましては、昨日からの雪のため急遽欠席となります。また、藤森教育委員、轟教育委員につきましては、ご都合により当初より欠席となっておりますが、事前説明によりご意見等をいただいております。それぞれの協議事項の中で、私からお伝えさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

企画政策部長 以降の会議の進行につきましては、本会議の運営規則に基づきまして、小口副市長をお願いいたします。

議題1 第3期岡谷市教育大綱（案）について

副市長 次第に沿って会議を進めてまいりますが、会議の終了時刻は概ね11時30分を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、議題の（1）第3期岡谷市教育大綱（案）について、はじめに早出市長をお願いします。

市長 今年度は、第3期岡谷市教育大綱と第5次岡谷市総合計画後期基本計画の策定の年であります。第3期岡谷市教育大綱の策定にあたりましては、教育委員の皆様方には、総合計画との整合をはかりながら検討を重ねていただきましたことに、厚く感謝申し上げます。

本日は、この教育大綱について、総合教育会議として協議・調整をしてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

副市長

それではこの件につきまして説明をお願いします。

【西山教育企画主幹より説明】

第3期岡谷市教育大綱（案）をご覧ください。

以下、資料に基づき説明。

（資料①）第3期岡谷市教育大綱（案）

副市長

ただいま説明がありました第3期岡谷市教育大綱（案）について、意見交換を行ってまいりたいと思います。最初に、宮坂教育長からお願いしたいと思います。

教育長

教育理念の岡谷の人づくりに果たす大きな役割を感じております。様々な機関また組織等と連携を強めながら、行政と協働し岡谷の人づくりを推進したいとそんな思いでございます。

太田職務代理

第3期岡谷市教育大綱（案）ということですが、教育だけではありませんが、人口減少・少子化ということで、社会が急激に変化しております。そんな時代だと認識しています。そのなかで、ひとりひとりの人というものに対する意味というか地域・社会の中における人の意味が非常に今後ますます大きくなっていくと考えています。教育大綱に関しては、案づくりに参画させていただき、改めて非常に強く感じているのは、時代が変わっていけばそれに対応していく教育のあり方もかわっていかねばならないということです。IT技術・情報化社会に対応するような力をつけていく具体的な施策等が盛り込まれていると感じております。

ただ逆に、教育ということで申し上げますと、時代が変わって、社会が変わって、様々な施策をかえていく必要がありながらも、やはりどこかでずっとかわらずにまもり続けていくものも核として必要と感じています。教育長からもありました教育大綱にある教育理念「自立し共生し、創造性溢れる『岡谷のひと』づくり」については、参画した立場としても、これからも、一つの岡谷の教育の方向性の柱として持ち続けていけるものと感じております。

特に、人づくりを進めるにあたって、人ひとりひとりの自己の力を育むために、学校・地域・家庭の力がしっかり下支えをして、そこが協力をしながら、その協働の基盤となる体制を行政がバックアップをしながら進めていくという形は非常に大事だと思っています。協力・協働をよりしっかり連携しながら進めていけるような方法・手段を時代の変化に合わせていろんな形で作りかえていく、より強固にしていく、ということが今後の教育政策の計画づくりの肝と感じています。そういうところを大事にしていければと思っています。

その意味で言いますと、議題の3にありますこども家庭センターの設置についても、時代の変化に合わせた具体策につながってくると感じています。この理念を大切にしながら、いろいろな変化に対応できるようなものにつくり上げていければと思っています。

林教育委員 職務代理が言われたものと同じ意見ですが、大きく3つの柱である学校教育・生涯学習・スポーツは市民の方みなさんが対象となってきます。広く周知をしていただいて、市民一人一人が意識できるようなバックプランを整備しておかなければいけないと思います。これを進める中で、この先振り返ったときに、次の計画がこの計画以上のものになるようにと考えています。

※教育部長より欠席者の意見

藤森教育委員 第2期岡谷市教育大綱の期間には新型コロナウイルスによるパンデミックや武力による国際紛争、生成AIの急速な普及による情報化の進展など世界的に大きな転換点となるような出来事が数多くありました。そうした点も踏まえ、第3期岡谷市教育大綱(案)においては、第2期岡谷市教育大綱で策定した理念を継承しつつ次代に適った要素を取り入れてブラッシュアップしていただいていると感じております。

新しい教育大綱のもと「まちづくり」は「ひとづくり」であると確信し、教育委員として引き続き協力していきたいと考えております。

轟教育委員 非常に包括的に、様々な考え方を盛り込んだ内容であり、これまでの教育委員ならびに関係者の思いも伝わるものだと感じています。

しかし、残念ながら、今現在、実際に教育に携わる方々に、十分に届いていないように思います。策定後、広く公表し、そのプランを達成していくことにこそ、意味があると考えています。

一般に伝えるためにも、シンプルでわかりやすい表現の資料を作り、多くの人にその理念を理解してもらう工夫が必要だと感じました。

副市長 それぞれ教育委員の皆様からご意見を伺いました。もし追加でご意見ございましたらお願いします。

(なし)

それでは、最後に早出市長より感想・意見をお願いします。

市長 教育長はじめ、教育委員からご意見いただきましたが、太田職務代理からは人口減少・少子化といった部分と、時代の変化に対応して教育もかわっていかねばいけない部分と大事にしていかなければならない部分があるとの意見をいただきました。林委員も同じと思いますが、私も同感です。

第5次岡谷市総合計画の「教育」に係わる基本目標であります「未来の担い手を育み、生涯を通じて学ぶまち」、また、岡谷市教育大綱に教育の理念として掲げる「自立し共生し、創造性溢れる『岡谷のひと』づくり」の実現に向けまして、市と教育委員会の連携はもとより、家庭、学校、地域、行政がともに連携しながら、教育の充実を図るとともに、市民がともに育つ「とも育ち」を推進してまいりたいと考えております。引き続き、ご支援ご協力をどうぞよろしく願いいたします。

副市長 それでは、第3期岡谷市教育大綱(案)につきましては、内容を確認いただいたということでよろしく願いいたします。

議題2 岡谷市川岸学園整備基本計画（案）について

副市長 続きます。協議事項の（２）、岡谷市川岸学園整備基本計画（案）についてを議題とします。最初に早出市長お願いします。

市長 昨年２月に川岸学園構想として打ち出しました「川岸学園」の整備につきましては、「川岸学園設立準備室」を中心として、基本計画（案）をまとめていただきました。その内容について、この総合教育会議で協議・調整をお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

副市長 それでは、この件について説明をお願いいたします。

【新村川岸学園設立準備室主幹より説明】

私から岡谷市川岸学園整備基本計画（案）について説明させていただきます。

以下、資料に基づき説明。

（資料②）岡谷市川岸学園整備基本計画（案）

副市長 ただいま説明がありました岡谷市川岸学園整備基本計画（案）につきまして、意見交換を行ってまいりたいと思っております。最初に宮坂教育長お願いします。

教育長 整備基本計画について、自分の中では２つのことを感じています。１つは幼保小中の連携の大切さです。実はこれは、岡谷市では今始まったものではなく、平成２８年度から学びの連携というかたちで、小中の連携・交流については年４回機会をもちながら非常に大事にしてきました。同様に、令和に入ってから、幼保小の連携も大事に育んできました。異学年の中に子どもたちが学ぶもの、異学年交流の中で受けるもの、それはとても大きなものがあると思っておりますしこれからに広がっていくもの、そんな風に考えております。

２つ目は、新たな試みに学んでいく大事さです。言葉をかえてみると、作り出していく過程にみんなが手を携え、新たな考えを出してこういうやり方がいいのではないかと、こんな風に考えてみればどうか、そうやって学びをつくり出していく過程にこそ大きな価値があると思っています。説明にありました「ねらい」に、私なりの解釈を含めながら、子どもたちの笑顔があふれ自己有用感に満たされた豊かな育ちということをお願いしながら、みんなで作り上げていきたいなと思っています。

林教育委員 認定こども園と義務教育学校という新しいかたちが進んでいくわけですが、スケジュール感としては３年後にはスタートする計画になっています。その中で、生徒もそうですが、保護者のみなさんや地域のみなさんへ早い段階で説明をしていただいて、地域のみなさんが一緒に盛り上がり、この新しい学校の設立に向けて取り組んでいけるような環境づくり、また市民のみなさんに対しても説明を進めていただきたいと思います。

認定こども園ですが、保護者の皆さんは車での送迎になるかと思っております。色々なシミュレーションをしていただいて安全性の部分や配慮についても検討を深めていた

できればと思います。

太田職務代理 川岸学園構想に関しては、肌感覚ではありますが多くの市民のみなさんに非常に期待をいただいていると感じております。もちろん、まだまだこれから具体化していく中ですので、不安を抱えている方もいらっしゃると思いますが、大筋では非常に大きな期待をいただいているのではないかと考えています。それだけに、教育委員の一人として責任も感じながら、しっかり進めていきたいなと思っております。

仮称川岸学園ということで、この場が選ばれたということは、私は岡谷市が進めている魅力と活力ある学校づくりというものの中で、今回たまたまこういうタイミングで川岸学園が対象となったという捉え方をさせていただいています。まず、ここで今後の岡谷市の学校のあり方というものをしっかり作り上げていくことをしていかなければならないかなと思っています。

将来に向かっては、個人的な考え方ですが、2つの視野をもって携わってきたいなと思っております。1つは、ここでしっかりした形をつくりあげることによって、もちろんそれぞれ具体的な形は違いますが、ここで得た非常に有用な知見を他の地域の学校にも着実に広げていけるような視野を持って携わっていかないといけないかなと思っています。それがきっと川岸学園構想にもある新たな学び舎という言葉に込められている一つの意味と考えております。

もう1つは、川岸学園構想の中にもありますが、地域との関わり方という部分で、非常に大きな役割も持ってくると思っています。これから先、社会の変化の中で改めて地域の新しいコミュニティづくりというものが必要になってくる時代ではないかなと感じています。岡谷では区が頑張ってくださっていますが、やはり学校というものが新しい地域のコミュニティのあり方の中で果たす役割は、可能性がすごくあるという気がしています。川岸学園が一つのモデルというところまで具体的に進められるかわかりませんが、新たな幼保から小中まで含めた形で連携していく、そこに地域の方にも関わっていただきながら、また学校も地域の皆さんに関していく、そうした中で、もしかしたら将来岡谷市で非常に大きな力を持つような今までとは違う地域コミュニティの可能性が見いだせるのではないかなと、個人的には感じております。私自身としては、そんな2つの視野を持ちながら携わってきたいなと思っております。

また、長いお子さんですと最長で14年間、同じ場で学ぶ可能性があります。この学びの場がどんな場になるかというのはそのお子さんにとっては人生を左右する可能性もある場になるかもしれませんので、しっかり責任もって携わってきたいと思っております。

※教育部長より欠席者の意見

藤森教育委員 川岸学園構想については既存の園・学校を統廃合するというよりは、これまでにな
(教育部長代読) い幼保小中連携の「新しい学校」をつくるということでその可能性や夢を示しながら前向きな事業として市民の皆様の理解が得られるよう進めていただきたいと思います。

基本計画では令和9年の開校・開園となっていますが、ややタイトなスケジュールであると感じます。早急に保護者の皆様、地域住民の皆様への概要説明などを進めていっていただきたいと思います。特に保護者の皆様は様々な部分で不安に思われてい

ることが多いと感じます。きめ細かい説明により安心して子どもを預けられるよう配慮をお願いします。

轟教育委員
(教育部長代読)

良い点として、保育園（幼稚園）から小学校、中学校まで、連続的で、かつ、上下の関係性を維持した形で教育できることで、安定的な学びの場が作られると期待されます。小1プロブレムや中1ギャップ、不登校問題の解決の糸口になる期待感もあります。

一方で、変化の少ない（刺激の少ない）、非常に限られた知り合い同士の空間は、閉塞感を生む心配が否めません。

自分自身も、そして子育ての経験上も、小1、中1という節目はストレスを感じつつも、それを克服し成長できる機会でもあったように思います。

逆に少し苦手な関係性をリセットできるチャンスにもなり得るはずです。

そんな経験のないまま、順調に次のステップに移行していけるのかなと不安になります。そういった義務教育学校のデメリットについては予め、対策が必要ではないかと感じています。

具体的には、市内の他の小中学校との交流の機会を従来よりも増やすなど、（短い時間の交流と言うよりも、定期的な学習活動といったイメージ）が良いと考えています。

次に、今回の資料で施設整備費用として、総額37億円の見積もりがあり、少し驚きました。新しい学びの場の施設整備にお金がかかることは理解できるのですが、施設整備というハード面の整備だけでなく、教育を充実するためのソフト面（人材、コンテンツ、サポート等）の強化により力を入れて欲しいと率直に思いました。

先日も話題になりましたが、計画があまりにタイトに感じます。そこまで急ぐ必要があるのかとも思います。既に川岸学園の話は、地元で大きな話題になっており、すれ違いや誤解のないよう、正しい情報の開示も同時に進めていくのが大切だと思います。

そのためにも少し時間に余裕があってもいいのかなと考えます。

副市長

各委員さんからそれぞれお話をいただきました。市長さんからご意見、ご感想等ありましたらお願いいたします。

市長

公立の幼保連携型認定こども園を併設する義務教育学校の整備につきましては、全国的に見ても例の少ない取組であると考えております。

先ほど教育長からありました2点のうちの一つですが、新たなチャレンジ、新しい学校をつくっていく過程が大切であり、新しい学びの場をつくっていくことが非常に大切であるとの意見でした。これからの岡谷市の教育のモデルになる事業であります。

施設整備と合わせて、特色と魅力のある教育も大切であり、そうした部分についても、これからみなさまと検討していく必要があると考えておりますので、引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

副市長

この件につきまして、全体を通じて何かご意見等ありましたらお願いいたします。

太田職務代理 今日欠席の委員からもありましたが、市民のみなさんにしっかりお伝えしながら、できれば少しでも参画をしていただくというお気持ちも持っていたくというところで、情報発信が非常に重要になってくると思います。そこらへんは丁寧に確実に進めていきたいし、そんな環境をつくっていただきたいと感じております。

副市長 他によろしいでしょうか。
(なし)

それでは、岡谷市川岸学園整備基本計画（案）につきましては、内容を確認いただいたということですのでよろしくお願いいたします。

議題3 こども家庭センターの設置について

副市長 議題の（3）、こども家庭センターの設置について議題とします。最初に早出市長をお願いします。

市長 児童福祉法の改正によりまして、既存の「子ども家庭総合支援拠点」と「子育て世代包括支援センター」の機能をあわせ持ちます「こども家庭センター」の設置が努力義務ではありますが、位置づけられました。

市といたしましては、これまで、岡谷市としての「こども家庭センター」のあり方を検討してまいりました。

岡谷市では、教育委員会に「子ども総合相談センター」を設置し、就学、教育などに関する相談体制を整え、従前より注力して取り組んできたところではありますが、「こども家庭センター」の設置にあたりましては、「子ども総合相談センター」との連携をより一層深めることで、母子保健、児童福祉、さらには教育関係も含め、相談窓口の一本化を実現し、岡谷市独自の「こども家庭センター」として、子どもや子育て世代への切れ目のない支援につなげてまいりたいと思っております。

詳細については、担当から説明いたします。忌憚のないご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

副市長 それでは、この件について説明をお願いいたします。

【高橋子ども課長より説明】

私からこども家庭センターについて説明させていただきます。

以下、資料に基づき説明。

(資料③)「岡谷市こども家庭センター まゆっこベースおかや」の設置について

副市長 ただいま説明がありましたこども家庭センターの設置につきまして、意見交換を行ってまいりたいと思っております。最初に宮坂教育長をお願いします。

教育長 支援がつながるということは言葉では難しいが、今まさに求められていることと強く感じております。相談・支援が充実・強化されていくことを私も一緒になって、大事にやっていきたいと思っております。

太田職務代理 子ども家庭センターを設置していただくことはありがたく思っております。岡谷市の教育に携わる者の一人として、岡谷の人づくりを進めていくにあたって、学校・地域・家庭の力というものの連携をしっかりと進めながら、それを行政がしっかりと下支えしていく、そんな形を進めていく、より強くしていく、それが非常に重要と考えています。

その中で、家庭に関しては、もちろんプライバシーやそれぞれの家庭の価値観もありますので、土足でこうなさいとかあしなさいとか価値観を押し付けて踏み込んでいけるようなものではないと思っています。その時に、家庭に対してできる支援は、やはり教育長がおっしゃるように相談をしていただく、悩み事や困りごとを相談していただく、それに応じてできる支援をしていくことが一番重要と私も思っております。その意味では、これまで子ども総合相談センターでしっかり一定年齢以上の児童生徒やご家庭に対するご相談に乗ってきていることがあり、その実態について報告をいただきながら理解をしてきているつもりです。悩み事を解決できるかは難しい部分もありますが、精いっぱい一人にきめ細かく相談に乗りながらいろんな支援をしている現状があると思っています。その支援がもっと小さなお子さんを抱えるご家庭にまで広がっていく、かつ一本化されて一つの窓口で相談いただけるようになり、そこからそれぞれの悩み事に応じて、必要な人につながっていくというかたちができることは非常に有用な、市民にとっても力強い支援になる可能性があると思っております。ですので、ぜひ周知していただき、相談が増えると受ける職員は大変になるかと思いますが、多くなっていくということは、もしかしたらそういう機能を抱える子ども家庭センターの成果ともなるかもしれないと思っています。

林教育委員 子ども家庭センターの設立ということで、今まで分かれたものが一体化して長期的に相談できるというのは私自身もいいことと思います。ただ、相談される方というのは、敷居が高いとか、相談したくてもできない方も多いのではないかと思います。ですので、相談しやすい環境とか、例えば直接行かなくてもネットで相談できる体制であるとか、プライバシーの面とか、周りから見られないように気軽に相談できる環境も大事と感じています。ここにきてすべてが解決するわけではないが、気持ち的な部分や心理的な部分が相談される側にとって有意義になればと思っています。

副市長 市長さんからご意見、ご感想等ありましたらお願いいたします。

市長 子ども家庭センターの設置につきましては、市と教育委員会がさらに連携を図り、子どもや子育て世帯への切れ目のない支援につなげてまいりたいと考えております。また、私の公約のひとつでもあります「子育て支援」についても、今後さらに充実を図ってまいりたいと考えておりますし、国のほうでも子ども家庭庁を設置して子どもまんなか社会をしっかりとつくっていくということでありますし、県のほうでもさら

に子育て支援の充実を図ってまいりたいという話であります。向かっていく方向は私たちも含めて間違っていないと思いますし、こども家庭センターの設置も、相談体制をしっかりと充実したものを作っていきたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

※教育部長より欠席者の意見

藤森教育委員 庁内横断的な子育て支援組織として「岡谷市こども家庭センター」が設置されることは大変素晴らしいことだと思います。また庁内のレイアウトも変更していただき教育委員会の子ども総合相談センターとの物理的連携が図れたことも歓迎します。

(教育部長代読)

親にとっては、周産期であれ、幼児期であれ、学齢期であれ、かけがえのない「子ども」であることに変わりはないので、これからも役所組織の論理にとらわれることなく真の意味でのワンストップサービスを目指して有益な運用が出来ますようお願いいたします。

轟教育委員 今までどこに相談したら良いか悩むケースもあった子育てに関して、包括的に支援できる組織が一本化されてとても良いと思います。

(教育部長代読)

子育てにおいては、その時期で悩みも大きく変わるものです。順調だったはずの子育てに、ある時、突然悩まされることもあります。

そのタイミングで相談できる窓口があることを思い出してもらうことが大切なことだと思います。

マタニティブルーから反抗期までと考えると、産婦人科（妊娠後、出産後）入園、入学、進級…など、その折々のタイミングで、お知らせできるといいのではないかと思います。

副市長 この件につきまして、全体を通じて何かご意見等ありましたらお願いいたします。

太田職務代理 岡谷市教育委員としては、ずいぶん前から各小学校に出向いて仲良しプログラムというものをやらせていただいています。個別の計画にも盛り込んでいただけるようになりました。これは、入学したての、今年度ではつい最近の来入児の一日体験入学の場で、保護者の皆さん向けに行わせていただいたんですが、1年生であるとか2年生であるとか、入学したてのお子さんをお持ちのご家庭の保護者に対して、できるだけお互いを早く知り合って、より深く知り合って、少しでも悩みがあればお互いに同じ立場の者同士として相談していけるような関係づくりを是非していただけるバックアップをしたいということでそんなお手伝いをしています。具体的には、参観日や来入児一日体験入学などの保護者のみなさんが集まる機会に、ゲームをしながら親睦を図ってお互いをできるだけ早く知っていただく機会をつくるということです。

そんなことをしばらく推進しながら、コロナ禍で間が空いてしまいましたが、今年度は地域の民生児童委員のみなさんにもご理解いただき、一緒に参加いただけるようになってきました。そんな折に、民生児童委員の皆様の方からも自己紹介をさせていただいて、何かあったら私たちに、それぞれの地域にいるから相談してね、という訴えかけもさせていただいています。

そういうところから申し上げますと、こども家庭センターもそんな機会に、私どもや民生児童委員のみなさんを通じて周知をさせていただきながら、少しでも周知をしたり、ハードルを下げたり、お手伝いをさせていただけるのではないかなと思っています。

市長 職務代理からいただきましたご意見はしっかり承りますし、仲良しプログラム、継続期の保護者の相談支援というのでしょうか、やはり同じ状況の方々の中で知り合いになって相談できるというのは非常に大切だと思います。今回市で行うのは相談窓口の一本化ということで、どんな方でも相談できるということです。周知していただけるとありがたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

副市長 他に全体を通じてよろしいでしょうか。

(なし)

それでは、こども家庭センターの設置については、内容を確認いただいたということでよろしくお願いいたします。

予定しておりました議事は以上でございます。

その他

副市長 最後にその他ですが、何かご発言等ございましたらお願いします。

(なし)

以上をもちまして、本日の会議事項は終了となります。進行を事務局の方にお返しをいたします。

閉会

企画政策部長 本日はお忙しい中、ありがとうございました。

以上をもちまして、令和5年度岡谷市総合教育会議を閉会といたします。お帰りの際は、お足元滑りやすいので気を付けてお帰りください。

どうもありがとうございました。